



# 横浜訓盲学院 だより

第26号 (2012年11月号)

2012年11月1日発行

〒231-0847 横浜市中区竹之丸181番地 URL : <http://kunmou.jp/>

事務部

TEL045-641-2626 FAX045-641-2627  
E-mail : jimukunmou.jp

普通部

TEL.FAX045-662-1710  
E-mail : futsuukunmou.jp

理療科

TEL.FAX045-662-1833  
E-mail : riryokunmou.jp



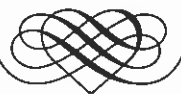
## インクルーシブ教育システムの構築と盲学校

学院長 中澤 恵江

これは、10月に開催された全国盲学校長会のシンポジウムのテーマでした。障害者権利条約が批准されると、障害のある子どもの教育は、可能な限り地域の中の通常の学校で行われることが徐々に主流となっていきます。しかし同時に、子どもがもつ能力や可能性を最大限に伸ばすことも求められています。この二つを実現するため、盲学校はこれからどのような道を進むのかということが討議され、私はシンポジストの一人として、海外情報の提供と意見を述べる機会をいただきました。その中の二つのポイントを紹介し、横浜訓盲学院のこれからの方向性についてお伝えしたいと思います。

一つは、障害者権利条約がインクルーシブ教育を推進する原則をもちながらも、特別な環境での教育を必要とする障害として、「盲」と「ろう」と「盲ろう」を条約の中に記していることです。もう一つは、インクルーシブ教育を約40年間推進してきたアメリカの現在の状況です。アメリカでは、できるかぎり通常学校での教育を進めていますが、通常学級から特別支援学校までの多様な選択肢を現在も確保して、一人ひとりのニーズに合った教育の場を選んでいきます。視覚障がいのみ有する生徒の大多数は通常学校に在籍し、盲学校にはある期間だけ在籍しています。そのため盲学校は通常学校への支援に大きな比重をおいています。一方、重複障がいのある子ども達の2割以上は特別支援学校に長く在籍することが示されています。また、パーキンス盲学校やテキサス盲学校のように活力のある学校は、盲ろう教育のセンターとしてもその存在意義を高め、選ばれる盲学校として高い専門性を誇っています。これらの情報は、日本の盲学校の未来に大切な示唆を与えてくれます。

中央教育審議会の報告において、日本も「多様な教育の場」を用意していくことが示されています。新たな時代の中、地域との連携をこれまで以上に深めながら、横浜訓盲学院は、視覚障がいのある重複障がい児、そして盲ろう児教育の専門性を高めていくことに邁進していきたいと考えています。



「取って食べなさい。これはわたしの体である。」

マタイによる福音書26章26節



《11月の聖句》 イエス様は命をささげてわたしたちの救いとなってくださいました。わたしたちが、お互いに愛し合うためにです。

# 「神の国 からし種のように—横浜訓盲学院の創立と礼拝」

横浜訓盲学院理事 目白教会牧師(前 横浜上原教会牧師) 古旗 誠

横浜訓盲学院は、1889年(明治22年)アメリカ人宣教師ピンクニー・ドレーパー女史によって創設されました。ドレーパー女史は最愛の夫を日本で失い、深い悲しみを抱えた寒い2月の雨の降る日に「ピーピーピー」と悲しげな笛の音を聞きました。それは目の見えない人が「あんま」のお客をさがすために、吹きながら歩いている笛の音でした。彼女は、早速その笛の音の盲人の少女を家に招きました。そこで日本の盲人が教育を受ける機会に恵まれず、貧しい暮らしを余儀なくされている現実を目にしました。それから神に祈る中で自分の働きが示されたのです。「日本の盲人に教育の機会を与えることです。文化的な生活が出来るように、お世話しよう」。国家の支援の無い時代、盲人に愛をもって仕える学校をはじめたのです。それから、今年で123年を迎えました。

横浜訓盲学院は、唯一のキリスト教による盲学校です。学院が大事にしていることは、「礼拝」をすることです。毎週、木曜日の午後1時から普通部の子ども達と理療科の学生達、学院の教職員みんなが集まって礼拝をします。礼拝では、子どもたちが元気いっぱい賛美をします。本当に楽しそうに大きな声と体でリズムをとって賛美をします。その日の聖書が読まれ牧師が説教をします。イエスの物語に驚いたり、悲し

んだり、喜んだり、様々な反応をします。その後、「月の暗唱聖句」を皆で声をそろえて朗読します。その週のお誕生日の人の名前の紹介をして、「生まれる前から 神さまに 守られてきた ともだちの誕生日です おめでとう」(盲人の三島徹作曲)の賛美を歌い祝います。15分程の礼拝ですが、みんなは神様からのたくさんの恵みと力を頂いて終わります。

年に数回外部の牧師先生にお話をさせて頂いていますが、皆、学院の礼拝に感動を覚えて帰られます。みんなが喜んで礼拝をしているからです。どうしてでしょうか。それは、この学院のひとりひとりがとても弱いけれども、神さまの大きな愛を素直に喜んでいるからです。みんな大きなハンデを負っているのですが、神さまやみんなに支えられている感謝がいっぱいだからです。どうぞ、横浜訓盲学院を祈りに覚えてください。そして、お支えください。



## 視覚障害

### 知識

## 視覚障がい者のスポーツ“ゴールボール”

今年の夏はロンドンオリンピックで寝不足の方も多かったと思います。銀座の凱旋パレードでは50万人もの人がメダリストをひと目見ようと押し寄せたことは、まだ記憶に新しいですね。

さて、オリンピックのあとはパラリンピックが開催されます。視覚障がい者が参加できる競技は、陸上、水泳、柔道、自転車、サッカーなどありますが、視覚障がい者独自の競技“ゴールボール”をご存じでしょうか。

“ゴールボール”は、外国でも盛んに行われている視覚障がい者のスポーツです。コートはバレーボールと同じ大きさで、センターラインを挟んでアイシェード(目隠し)をした1チーム3名が対峙します。ボールには鈴が入っており、バスケットボールくらいの大きさでやや重く、これを転がしてゴールをねらい、一番後ろのラインを越えればゴール(得点)となります。

オフェンスがボールを渾身の力で相手ゴールへ転がすと、ディフェンスはボールの軌跡を音で捉えて横っ飛びで身体で押さえます。ボールを受け止めるとすぐさま攻撃へ。相手のディフェンスの隊形を感覚で捉え、トップスピードで転がすとディフェンスの手をはじめてゴールー!。単純なようでとても繊細なボールゲームです。

今大会、金メダルを獲得したゴールボール女子日本代表は帰国後「なでしこに近づけてうれしい」とコメントしたそうです。余談ですが、ロンドンでは、“オリンピック&パラリンピックピクトリーパレード”と称して両大会の選手約800名が合同で2時間あまりのパレードを行ったそうです。

## 幼小グループ 社会体験学習



9月14日(金)に幼小グループでは、野毛山動物園へ社会体験学習に行ってきました。様々な動物の鳴き声を聞いたり実際に触ったりして、とっても楽しく過ごすことができました。

園内に入ると、本物そっくりのライオンの形をした募金箱がお出迎え♪ みんなで、そのライオンの口の中に手を入れたりして調べていました。そして、みんなが楽しみにしていた、なかよし広場では、ハツカネズミ、モルモット、ヒヨコ、チャボ、ニワトリに加え、ヘビの「青ちゃん(アオダイショウ)」が登場しみんな興味津々!飼育員の方の説明を受け、優しく動物に触ったりして様々な小動物と触れ合うことができました。特に一番人気だったのは、ヘビの「青ちゃん」でした!!感触が面白いのか顔を触ったり、体全体を触ったりと怖がる様子もなく「青ちゃん」と触れ合っていました。子どもたちみんな、一日を通してたくさんの動物たちと仲良くなることができました。



## 生活科デイキャンプ



9月20日(木)に三ツ沢公園野外活動センターで生活科の生徒6名がデイキャンプを行いました。生徒たちは事前学習として学校の授業で、薪を割ってかまどで火を起こしたり、コンロを使って「飯ごう炊さん」をしたり、実際に材料をスーパーに買いに行き、本番に調理するハヤシライスを作ったりして、野外活動への準備をしてきました。そして迎えた当日は、はじめて野外活動センターへ行く生徒がほとんどだったため、緊張している様子が見られました。

しかし、実際にハヤシライスの調理をはじめると、授業で事前学習として行ってきたことを徐々に思い出し、みんな根気よく各自の仕事に取りかかり、ハヤシライスを完成させることができました。実際に薪の火で作ったご飯とハヤシライスは絶品で、生徒たちはたくさんおかわりをしてお腹いっぱい食事をすることができました。天気にも恵まれ、有意義な野外活動に取り組むことができました。

## 助成金贈呈式



中澤学副長 堀理幸長 森理幸長

### ◆9月19日(水)

「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が横浜訓盲学院会議室にて行われ、同財団の森信博理事長、鎌田栄次郎常務理事が来校され、堀忠蔵理事長に目録が渡されました。

今年度の助成金で、パーキンスプレーヤー、iPad、腎臓・ネフロン・糸球体模型を購入することができすことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

### ◆10月25日(木)

「神奈川県眼科医会」様の理事会において、寄附金の贈呈式が行われ、同会の種田芳郎会長より寄附金をいただきました。本当にありがとうございました。

## 冷えは万病の元

思う  
ツボ

冬の足音が近づき、木々の彩りも鮮やかになってきました。手足の冷えが気になり始める頃ですね。冷えには五首(首・手首・足首)を温めることが大切です。中でも首は太い血管が表面にあります。首が外気に触れていると、どんなに手足首を温めても手足は温まりません。血液は心臓から1分間で体内を一回りするので、首で冷やされた血液はどンドン体をまわり、心臓から遠く、もともと冷えやすい手足はさらに冷えていきます。

一度手足が冷やされると、また戻るまで30分以上かかります。寝るときに布団に入っても足がなかなか温まらないのは、起きている時に首回りを冷やしてしまっているのかもしれない。そこで首回りを温める対策としてお風呂上がりにはタオルを首の周りに巻いておきましょう。湯たんぽなどで温めるのも良いですが、ない場合、フライパンで塩を煎って新聞で包み、温めたい場所に当てるのも効果があります。塩を乾煎りすると、200度以上の高温になりますので、くれぐれも火傷に注意してください。冷えは万病の元です。五首を温め、全身をぽかぽかに保って寒い季節を乗り切りましょう。

PTAバザーのご案内



今年も恒例のPTAバザーを開催致します。焼きそば・豚汁等の模擬店、生花の鉢植え、普通部生徒の手作りお菓子コーナー、雑貨販売などの他に、理療科では生徒によるクイックマッサージが催されます。ぜひ、お立ち寄りください。

日時：11月17日(土)12:00～15:00(雨天決行)  
場所：横浜訓盲学院 前庭・講堂など



◎平成24年度後期の主な行事予定◎

- 11月** 2日(金) 普通部保護者参観日  
9日(金) 理療科遠足  
17日(土) PTAバザー  
28日(水) 普通部 マラソン大会
- 12月** 8日(土) 普通部 第1次入学検定  
15日(土) 神奈川県盲学校サウンド・テーブルテニス大会  
21日(金) 理療科生徒会クリスマス祝会  
22日(土) クリスマス祝会  
26日(水)～1月8日(火) 冬休み
- 1月** 19日(土) 理療科 第1次入学検定  
26日(土) 学校開放「お餅つき」
- 2月** 16日(土) 普通部保護者参観日  
23日(土) あん摩・マッサージ指圧師国家試験  
24日(日) はり・きゅう師国家試験
- 3月** 19日(火) 平成24年度卒業式・修了式

臨床実習のご案内

当学院では授業の一環として、あんま・マッサージ・指圧および、はり灸の臨床(治療)を行っています。是非ご利用下さい。



★あんま・マッサージ・指圧・はり灸……………水・木・金曜日

料金 一律1000円 時間 前半9:50～ 後半10:50～(各50分ずつ)

◆ご予約はお電話で!

当日の朝 8:45～9:10

◆お問い合わせは理療科まで

電話090-9009-5882 電話045-662-1833

平成25年1月26日(土)に横浜訓盲学院恒例のお餅つき大会を予定しています。

大人がつく大日と子供がつく小日を用意し、参加者皆で餅をついていきます。また、つきたての餅を使った大福作り体験なども予定しておりますので、是非、ご来校下さい。皆様のお越しをお待ちしています。



平成25年度生徒募集

【普通部】幼児・児童・生徒募集

- 募集定員  
幼稚部(3歳児・4歳児・5歳児) 計6名  
小学部 1年生4名  
中学部 1年生4名  
高等部普通科 1年生4名  
高等部専攻科生活科 1年生4名
- 募集期間  
(一次)平成24年11月1日～平成24年11月21日  
(二次)平成25年1月11日～平成25年2月28日
- 入学検定日  
(第1回検定日)平成24年12月8日(土)午前9時～  
(第2回検定日)随時。
- お問い合わせ  
普通部(直通) TEL.045-662-1710

【高等部理療科】生徒募集

- 募集定員  
高等部専攻科保健理療科(3年課程) 1年生4名  
高等部専攻科理療科(3年課程) 1年生8名
- 募集期間  
(一次)平成24年11月1日～平成25年1月11日  
(二次)平成25年1月21日～平成25年3月6日
- 入学検定日  
(一次)平成25年1月19日(土)午前9時～  
(二次)随時。出願書類提出後、調整のうえ試験日を定め実施。
- お問い合わせ  
理療科(直通) TEL.045-662-1833

ご協力のお願い  
(平成24年度 賛助会員)

私どもの視覚障害教育にご理解いただき、ご支援下さる団体・個人の方々の賛助会員を募らせていただいております。よろしくお願ひ申し上げます。

- 【年会費】 団体会員(1口)10,000円/個人会員(1口)1,000円(口数は問いません)
- 【お支払い方法】 ・郵便振替[加入者名]学校法人横浜訓盲学院(口座番号00200-5-40861)  
・現金
- 【その他】 会費以外に寄附金も有難くお受けいたします。
- 【免税措置】 ・会費は寄付金として扱われ、横浜訓盲学院より領収書が発行されます。  
・当校は特定公益増進法人の認可を受けておりますので、法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で免税会計処理ができます。  
・個人の場合は、2,000円を超える金額に対して免税されます。
- 【お問合せ先】 横浜訓盲学院 事務部 TEL.045-641-2626